



2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月11日

上場会社名 株式会社アカツキ 上場取引所 東
 コード番号 3932 URL https://aktsk.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 香田 哲朗
 問合せ先責任者 (役職名) CFO (氏名) 米島 慶一 TEL 03 (5422) 7757
 定時株主総会開催予定日 2023年6月22日 配当支払開始予定日 2023年6月23日
 有価証券報告書提出予定日 2023年6月23日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期の連結業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	24,336	△7.4	5,700	△23.5	5,207	△33.8	1,342	△74.2
2022年3月期	26,273	△15.5	7,448	△34.1	7,867	△29.5	5,193	△18.2

(注) 包括利益 2023年3月期 1,420百万円 (△73.4%) 2022年3月期 5,347百万円 (△16.8%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	98.97	96.07	3.5	10.5	23.4
2022年3月期	381.62	369.74	14.0	17.1	28.3

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 ー百万円 2022年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	53,156	38,752	72.7	2,842.89
2022年3月期	46,079	38,236	82.9	2,826.63

(参考) 自己資本 2023年3月期 38,642百万円 2022年3月期 38,209百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	5,047	1,191	4,937	33,971
2022年3月期	4,793	△3,008	△4,187	22,624

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期	ー	40.00	ー	40.00	80.00	1,087	21.0	3.0
2023年3月期	ー	40.00	ー	40.00	80.00	1,091	80.8	2.8
2024年3月期(予想)	ー	40.00	ー	ー	ー	ー	ー	ー

(注) 1. 2023年3月期における1株当たり期末配当金については、未定から40円に変更しており、2024年3月期の中間配当金については40円としております。詳細については、本日(2023年5月11日)公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 2024年3月期の期末配当につきましては、現時点で業績予想が困難であることから未定としております。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

当社グループは、ゲーム事業の短期的な事業環境が激しく変化する不確定要素が多いことに加え、コミック事業についても積極的に挑戦していく方針であり、適正かつ合理的な数値の算出が非常に困難であります。そのため、今後につきましては、四半期毎の決算や事業の概況の適時な開示に努めることにより、通期の業績予想については開示しない方針とさせていただきます。詳細につきましては、添付資料P3「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
 新規 1社（社名）Dawn Capital 1号投資事業有限責任組合、除外 1社（社名）－
 （注）当期における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 ② ①以外の会計方針の変更：無
 ③ 会計上の見積りの変更：無
 ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P. 14「3. 連結財務諸表及び主な注記（5）連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期	14,143,600株	2022年3月期	14,098,100株
② 期末自己株式数	2023年3月期	550,805株	2022年3月期	580,564株
③ 期中平均株式数	2023年3月期	13,562,222株	2022年3月期	13,607,860株

（注）1. 株式給付信託（J-ESOP）により信託口が保有する当社株式（2023年3月期：50,077株、2022年3月期：80,005株）を、自己株式に含めて記載しております。

2. 株式給付信託（J-ESOP）により信託口が保有する当社株式（2023年3月期：60,966株、2022年3月期：67,940株）を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めて記載しております。

（参考）個別業績の概要

1. 2023年3月期の個別業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	25,382	△1.5	7,097	△2.8	6,789	△9.7	3,589	△27.1
2022年3月期	25,760	△15.5	7,303	△36.5	7,519	△29.1	4,922	△21.5

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期	264.66	256.93
2022年3月期	361.74	350.47

（注）株式給付信託（J-ESOP）により信託口が保有する当社株式を、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2023年3月期：60,966株、2022年3月期：67,940株）。

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	53,249	40,300	75.5	2,957.87
2022年3月期	45,521	37,627	82.6	2,781.52

（参考）自己資本 2023年3月期 40,205百万円 2022年3月期 37,599百万円

（注）株式給付信託（J-ESOP）により信託口が保有する当社株式を、1株当たり純資産の算定上、事業年度末の発行済株式総数から控除する自己株式に含めております（2023年3月期：50,077株、2022年3月期：80,005株）。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料における将来の見通しに関する記述・言明は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

決算説明資料は2023年5月11日に当社WEBサイトに掲載いたします。

また当社は2023年5月12日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(会計方針の変更)	14
(セグメント情報)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている他、物価上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

そのような状況の中、当社グループが属するゲーム業界を取り巻く環境につきましては、2022年の世界のビデオゲーム消費支出は前年比5.4%増の2,031億ドルと予測されておりますが、その中でも最も大きな割合を占めているモバイルゲームにつきましては前年比5.0%増の1,035億ドルの市場規模へ成長することが見込まれており（出典：Newzoo「Global Games Market Forecast」）、引続きグローバルで成長し続ける業界であると考えられております。

また、当連結会計年度において当社グループが新規参入したコミック事業を取り巻く環境につきましては、国内の2021年コミック市場全体で前年比10.3%増の6,759億円と過去最高を更新しております。その中でも電子コミック市場は前年コロナ禍の自粛生活で拡大した新規ユーザーがそのまま定着している他、「縦スクロールコミック」の台頭でマンガを読んでこなかった新たなユーザーを掘り起こしている結果、前年比20.3%の4,114億円と大きく成長しております。さらに、当社グループが提供を始めた縦読みフルカラーコミック「ウェブトゥーン」の世界市場は、2027年に約2兆円規模にまで成長すると予想されております（出典：QYR Research）。

このような環境の中、当社グループは今後、さらなる成長を加速させるため、責任と権限を一体化して事業を運営するベンチャーグループを目指し、ゲーム事業とコミック事業の分社化及びDawn Capital 1号投資事業有限責任組合の組成等を進めてまいりました。また、当社グループの主力事業であるゲーム事業に関する既存タイトルの堅実な運用の他、新規開発タイトルへの積極的な投資を進めました。またコミック事業では2022年6月に縦読みフルカラーコミックアプリ「HykeComic」を正式にリリースしております。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高24,336百万円（前期比7.4%減）、営業利益5,700百万円（前期比23.5%減）、経常利益5,207百万円（前期比33.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益1,342百万円（前期比74.2%減）となっております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社グループは、当連結会計年度より、報告セグメントを「ゲーム事業」、「コミック事業」の2つの報告セグメントと、「その他」の3区分のセグメントに変更しております。なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の区分により作成することは実務上困難なため、前年同期比情報については開示を行っておりません。

(ゲーム事業)

当社グループのゲーム事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は見受けられず、より高いクオリティとユーザー体験にこだわり、タイトルを厳選して開発・運用していく方針の下、既存タイトルの堅実な運用と新規タイトルの開発に努めてまいりました。主力タイトルである株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの協業タイトル「ドラゴンボールZ ドッカンバトル」につきましては、5年ぶりに新ストーリーを追加しユーザーの活性化を図った他、海外版の対応言語も拡大させ6言語に対応させるなど、長期目線での運用を継続しつつ、劇場版との連動企画や国内版8周年イベント及び海外版7周年イベントの開催により、国内だけでなく米仏含む複数の国と地域でストアセールスランキング（注）1位を獲得しました。

また、株式会社スクウェア・エニックスとの協業タイトル「ロマンシング サガ リ・ユニバース」では、国内版3.5周年及び4周年イベントや佐賀県とのコラボイベントを開催するなど、コアファンを惹きつける長期目線での安定運営を継続してまいりました。

この結果、当連結会計年度においては、売上高23,843百万円、セグメント利益7,887百万円となっております。

（注）ストアセールスランキング：App Store またはGoogle Playのセールスランキング

(コミック事業)

当社グループのコミック事業につきましては、2021年より準備を進めていたサービスである縦読みフルカラーコミックアプリ「HykeComic」を2022年6月に正式リリースしております。当該アプリでの取扱い作品数の増加やオリジナルコンテンツへの積極的な投資に加えて広告施策も行うことで、ユーザー数が順調に増加し売上高が伸びました。また、有名クリエイターと協業による新作の連載開始や、一部の作品を他社プラットフォームにて販売を開始し複数タイトルが上位にランクインするなど、オリジナル作品の反響に手応えを得ております。

この結果、当連結会計年度においては、売上高261百万円、セグメント損失988百万円となっております。

(その他)

当社グループのその他事業はIP事業等が含まれており、当連結会計年度においては、売上高232百万円、セグメント損失565百万円となっております。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて7,076百万円増加し53,156百万円となりました。主な要因として、現金及び預金の増加8,346百万円及びその他流動資産の増加1,092百万円があった一方で、売掛金の減少1,938百万円によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて6,561百万円増加し、14,403百万円となりました。主な要因として、未払法人税等の増加508百万円、新規発行による社債（1年内償還予定を含む）の増加2,000百万円及び長期借入金（1年内返済予定を含む）の増加3,991百万円によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末に比べて515百万円増加し38,752百万円となりました。主な要因として、親会社株主に帰属する当期純利益の計上1,342百万円、株式給付信託（J-ESOP）からの株式給付による自己株式の処分等の影響による自己株式の減少97百万円及び新規発行による新株予約権の増加66百万円があった一方で、剰余金の配当1,089百万円によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ11,346百万円増加し33,971百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において、営業活動の結果得られた資金は5,047百万円（前連結会計年度は4,793百万円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払額1,629百万円があった一方で、税金等調整前当期純利益3,776百万円及び売上債権の減少額1,894百万円の計上があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において、投資活動の結果獲得した資金は1,191百万円（前連結会計年度は3,008百万円の支出）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入4,550百万円があった一方で、投資有価証券の取得による支出2,242百万円及び定期預金の預入による支出1,407百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において、財務活動の結果獲得した資金は4,937百万円（前連結会計年度は4,187百万円の支出）となりました。これは主に、社債の発行による収入1,974百万円及び長期借入れによる収入4,000百万円があった一方で、配当金の支払額1,088百万円があったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

2024年3月期以降につきましては、今後もゲーム事業を軸として、国内展開だけでなく、海外展開についてもこれまで以上に推進してまいります。

具体的には、ゲーム事業において、既存タイトルでは、ゲーム外でのイベントとも連動しながら利用を活性化し、引続きLTV最大化を目指して運用してまいります。また、新規タイトルの開発では、次世代のゲーム体験を牽引する3Dを含む新技術の研究・開発に投資するとともに、人材採用や育成を更に強化することにより、中長期的な成長を狙ってまいります。なお、2024年3月期ではトライブナイン及び、株式会社コーエーテクモゲームスと共同開発しているゲーム、2本のリリースを目標としております。

また、コミック事業につきましては、主にウェブトゥーンアプリ「HykeComic」の開発、及びオリジナル作品の制作に注力するとともに、海外展開及びライセンスアウトについてもアジアや英語圏を中心に取り組んでいくことで、将来の更なる成長を目指してまいります。

以上を踏まえた2024年3月期の業績見通しにつきましては、ゲーム事業の短期的な事業環境が激しく変化する不確定要素が多いことに加え、コミック事業についても積極的に投資していく方針であり、適正かつ合理的な数値の算出が非常に困難であるため、開示しない方針とさせていただきます。

なお、業績見通しが適正かつ合理的に算出できる状況になりましたら、適時に開示する方針でございます。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,724	34,071
売掛金	4,836	2,898
契約資産	534	1,042
その他	1,759	2,852
流動資産合計	32,856	40,864
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	809	812
減価償却累計額	△170	△265
建物及び構築物(純額)	638	546
工具、器具及び備品	369	359
減価償却累計額	△256	△252
工具、器具及び備品(純額)	113	106
その他	11	11
減価償却累計額	△10	△10
その他(純額)	1	0
有形固定資産合計	753	653
無形固定資産		
ソフトウェア	77	9
その他	0	0
無形固定資産合計	78	10
投資その他の資産		
投資有価証券	11,098	10,889
繰延税金資産	355	65
その他	960	672
貸倒引当金	△24	—
投資その他の資産合計	12,390	11,627
固定資産合計	13,223	12,291
資産合計	46,079	53,156

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	985	623
1年内償還予定の社債	—	1,000
1年内返済予定の長期借入金	8	2,200
未払法人税等	757	1,265
契約負債	375	98
賞与引当金	249	331
株式給付引当金	194	62
その他	996	1,766
流動負債合計	3,567	7,348
固定負債		
社債	2,000	3,000
長期借入金	2,200	4,000
その他	75	54
固定負債合計	4,275	7,054
負債合計	7,842	14,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,777
資本剰余金	2,772	2,776
利益剰余金	34,499	34,746
自己株式	△2,061	△1,963
株主資本合計	37,984	38,338
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137	160
為替換算調整勘定	86	144
その他の包括利益累計額合計	224	304
新株予約権	27	94
非支配株主持分	—	14
純資産合計	38,236	38,752
負債純資産合計	46,079	53,156

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	26,273	24,336
売上原価	10,773	9,984
売上総利益	15,500	14,352
販売費及び一般管理費	8,051	8,651
営業利益	7,448	5,700
営業外収益		
受取利息	10	29
為替差益	83	80
投資事業組合運用益	58	—
暗号資産評価益	160	—
暗号資産売却益	—	58
その他	161	29
営業外収益合計	474	197
営業外費用		
支払利息	19	39
社債発行費	—	25
出資金運用損	17	224
投資事業組合運用損	—	121
暗号資産評価損	—	279
その他	18	1
営業外費用合計	55	690
経常利益	7,867	5,207
特別利益		
事業譲渡益	13	211
投資有価証券売却益	533	114
特別利益合計	546	326
特別損失		
固定資産除却損	60	—
投資有価証券評価損	951	1,693
事業譲渡損	43	1
和解金	77	—
減損損失	—	63
特別損失合計	1,133	1,757
税金等調整前当期純利益	7,280	3,776
法人税、住民税及び事業税	2,082	2,172
法人税等調整額	5	262
法人税等合計	2,087	2,435
当期純利益	5,193	1,340
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	—	△1
親会社株主に帰属する当期純利益	5,193	1,342

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	5,193	1,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91	22
為替換算調整勘定	63	57
その他の包括利益合計	154	79
包括利益	5,347	1,420
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,347	1,421
非支配株主に係る包括利益	—	△1

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,765	2,764	30,412	△268	35,673
当期変動額					
新株の発行	8	8			16
剰余金の配当			△1,105		△1,105
親会社株主に帰属する当期純利益			5,193		5,193
自己株式の取得				△2,137	△2,137
自己株式の処分				344	344
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	8	8	4,087	△1,792	2,311
当期末残高	2,773	2,772	34,499	△2,061	37,984

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	46	23	69	29	35,772
当期変動額					
新株の発行					16
剰余金の配当					△1,105
親会社株主に帰属する当期純利益					5,193
自己株式の取得					△2,137
自己株式の処分					344
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	91	63	154	△1	153
当期変動額合計	91	63	154	△1	2,464
当期末残高	137	86	224	27	38,236

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,773	2,772	34,499	△2,061	37,984
当期変動額					
新株の発行	4	4			9
剰余金の配当			△1,089		△1,089
親会社株主に帰属する当期純利益			1,342		1,342
連結範囲の変動			△5		△5
自己株式の取得				△36	△36
自己株式の処分				134	134
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	4	4	247	97	354
当期末残高	2,777	2,776	34,746	△1,963	38,338

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	137	86	224	27	—	38,236
当期変動額						
新株の発行						9
剰余金の配当						△1,089
親会社株主に帰属する当期純利益						1,342
連結範囲の変動						△5
自己株式の取得						△36
自己株式の処分						134
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	22	57	79	66	14	161
当期変動額合計	22	57	79	66	14	515
当期末残高	160	144	304	94	14	38,752

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,280	3,776
減価償却費	162	148
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2	80
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	△204	△130
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△100	△24
事業譲渡損益 (△は益)	29	△210
和解金	77	—
固定資産除却損	60	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	951	1,693
投資有価証券売却損益 (△は益)	△533	△114
暗号資産評価損益 (△は益)	△160	279
暗号資産売却損益 (△は益)	—	△58
減損損失	—	63
受取利息及び受取配当金	△10	△29
支払利息	19	39
社債発行費	—	25
為替差損益 (△は益)	△83	△101
出資金運用損益 (△は益)	17	224
投資事業組合運用損益 (△は益)	△58	121
売上債権の増減額 (△は増加)	754	1,894
契約資産の増減額 (△は増加)	△534	△507
その他の資産の増減額 (△は増加)	435	△894
仕入債務の増減額 (△は減少)	55	△326
契約負債の増減額 (△は減少)	375	△276
その他の負債の増減額 (△は減少)	△1,156	954
その他	134	59
小計	7,516	6,686
利息及び配当金の受取額	10	29
利息の支払額	△19	△39
和解金の支払額	△54	—
法人税等の支払額	△2,660	△1,629
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,793	5,047
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△1,407
定期預金の払戻による収入	3,006	4,550
有形固定資産の取得による支出	△370	△49
無形固定資産の取得による支出	△77	△7
貸付金の回収による収入	120	20
投資有価証券の取得による支出	△5,496	△2,242
投資有価証券の売却による収入	729	457
子会社株式の取得による支出	△298	—
暗号資産の取得による支出	△450	△364
その他	△170	234
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,008	1,191

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	—	1,974
社債の償還による支出	△1,000	—
長期借入れによる収入	—	4,000
長期借入金の返済による支出	△99	△8
株式の発行による収入	16	9
新株予約権の発行による収入	—	18
非支配株主からの払込みによる収入	—	16
自己株式の売却による収入	—	15
自己株式の取得による支出	△1,998	—
配当金の支払額	△1,104	△1,088
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,187	4,937
現金及び現金同等物に係る換算差額	146	△27
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,256	11,149
現金及び現金同等物の期首残高	24,881	22,624
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	196
現金及び現金同等物の期末残高	22,624	33,971

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、時価算定会計基準適用指針の適用による連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは事業活動の特徴を考慮した経営管理上の区分に基づき、事業セグメントを集約したうえで、「ゲーム事業」、「コミック事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ゲーム事業」は、主にモバイルゲームの企画、開発及び運営を行っております。

「コミック事業」は、縦読みフルカラーコミックの企画、制作、配信及び「HykeComic」アプリの運営を行っております。

従来、当社グループは全セグメントに占める「ゲーム事業」の割合が高く、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、当連結会計年度より、当社グループにおけるコミック事業の重要性が増したため、報告セグメントに「コミック事業」を追加し、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」としてセグメント情報を開示しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報を当連結会計年度の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、必要な財務情報を遡って作成することが実務上困難であるため、開示を行っておりません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

I 前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

当社グループは、全セグメントに占める「ゲーム事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	ゲーム	コミック	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	23,843	261	24,104	232	24,336	—	24,336
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	23,843	261	24,104	232	24,336	—	24,336
セグメント間の内部売上高又は振替高	142	—	142	8	151	△151	—
計	23,985	261	24,247	240	24,487	△151	24,336
セグメント利益又は損失(△)	7,887	△988	6,898	△565	6,333	△633	5,700
その他の項目							
減価償却費	139	0	139	1	141	7	148

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IP事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△633百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△648百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. セグメント資産については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象となっていないため記載をしております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	2,826.63円	2,842.89円
1株当たり当期純利益	381.62円	98.97円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	369.74円	96.07円

(注) 1. 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式を、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(前連結会計年度80,005株、当連結会計年度50,077株)。また、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前連結会計年度67,940株、当連結会計年度60,966株)。

2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,193	1,342
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,193	1,342
普通株式の期中平均株式数(株)	13,607,860	13,562,222
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	437,352	408,280
(うち新株予約権(株))	(437,352)	(408,280)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権2種類(新株予約権の数219,842個(普通株式222,020株))	新株予約権2種類(新株予約権の数215,132個(普通株式217,130株))

(重要な後発事象)

(共通支配下の取引等)

当社は、2023年2月10日開催の取締役会において、当社の100%出資の連結子会社である株式会社アカツキライブエンターテインメントを吸収合併（以下、本合併）することを決議し、同日付で合併契約を締結し、2023年4月1日を効力発生日として吸収合併いたしました。

(1) 本合併の目的

当社グループは「世界をエンターテインする。クリエイターと共振する。」をミッションに、ゲーム事業を主軸にコミック事業にも挑戦し、デジタルコンテンツを武器にグローバルで戦える会社を中長期的に目指しております。今後、さらなる成長を加速させるため、責任と権限を一体化して事業を運営するベンチャーカンパニーグループを目指し、2022年4月よりゲーム事業とコミック事業の分社化及びDawn Capital 1号投資事業有限責任組合の組成等を進めてまいりました。

そこで、株式会社アカツキライブエンターテインメントはライブエクスペリエンス事業を展開しておりますが、中長期的な当社グループの業績拡大及び企業価値の増大を目指すにあたり、経営資源の選択と集中により経営の合理化を図ることを目的として本合併を行うことといたしました。

(2) 本合併の概要

①被結合企業の名称及びその事業の内容

被結合企業の名称 株式会社アカツキライブエンターテインメント
事業の内容 ライブエクスペリエンス事業

②企業結合日（効力発生日）

2023年4月1日

③企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社アカツキライブエンターテインメントを消滅会社とする吸収合併

④結合後企業の名称

株式会社アカツキ

(3) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」、「事業分離等に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。